

小学生のための

いわつきはんせんきょうかん
岩槻藩遷喬館のごあんない

さいたま市岩槻藩遷喬館



「遷喬館」は、今からおよそ200年前の江戸時代に、
児玉南柯という先生が開いた学校です。明治時代に新し
い小学校ができるまで、岩槻藩の武士の子どもがここで
勉強しました。今は、江戸時代のようにすを復原して、だ
れでも見られるようにしています。



こだまなんか
児玉南柯

せんきょうかん れきし
・ 遷喬館の歴史

かんせい せいれき
寛政11年(西暦1799年)

ぶんかねんかん せいれき
文化年間(西暦1805~11年ごろ)

めいじ せいれき
明治4年(西暦1871年)

めいじ せいれき
明治5年(西暦1872年)

しょうわ せいれき
昭和14年(西暦1939年)

へいせい せいれき
平成18年(西暦2006年)

こだまなんか せんきょうかん なんかせんせい さい
児玉南柯が遷喬館をつくる。このとき南柯先生は54歳。

いわつきはん はんこう はんし ぶし こ かよ
岩槻藩の藩校となり、藩士(武士)の子どもだけが通うよ
うになる。(ほかの子どもは郷学校や寺子屋に通うようにな
った)

はいはんちけん いわつきはん せんきょうかん はいし
廃藩置県により岩槻藩がなくなり、遷喬館も廃止される。

せんせい こじん じゅぎょう こうりつ いわつきごう
もとの先生が個人で授業をはじめたが、公立の岩槻郷
学校(後の岩槻小学校)ができたため廃止となる。

いわつきはんせんきょうかん さいたまけんしていぶんかざい しせき
岩槻藩遷喬館が埼玉県指定文化財(史跡)になる。

かいたいふくげんしゅうり お けんがく
解体復原修理が終わり、だれでも見学できるようになる。

遷喬館 Q & A

・ どの子どもが通ったの？

遷喬館には、6歳～7歳ごろから20歳ごろの子どもが、40人くらい通っていました。遷喬館ができてからしばらくは、南柯先生が運営をしていて、藩士（武士）や商人、農家の子どもが通っていました。そのあと岩槻藩が運営をすることになり、「藩校」「勤学所」とも呼ばれるようになりました。藩校になってからは、藩士の子どもだけになりました。

・ どの勉強をしたの？

遷喬館では「儒学」という学問を勉強しました。儒学は、中国に古くから伝わる学問で、「孔子」という中国の学者の教えにもとづいて、中国や日本の歴史や、人がどのように生きれば良いかなどを教えていました。午前中は小さい子どもにやさしい内容を教え、午後は進級試験を受けた子どもが、より難しい内容を勉強していました。

・ いまの建物はいつごろできたの？

遷喬館ができた寛政11年（西暦1799年）ごろに建てられたようです。中央の広い二つの部屋が教室で、両側には先生の部屋と、ものを置いておく納戸があります。

遷喬館が廃止になってからは、人が住むための家に作り変えられていました。その後、埼玉県に残っている藩校の建物はほかに無いことから、文化財として保存することになりました。作り変えられた部分を元に戻す工事を行ない、江戸時代の藩校のようすがわかるようになっています。

・ 遷喬館のほかにも学校があったの？

江戸時代の終わりごろの岩槻区には、学校が四種類ありました。

藩校（遷喬館） 藩士（武士）の子ども（男子のみ）が通いました。

郷学校（戩穀堂） 町人・商人の子ども（男女とも）が通いました。文字の読み書きやそろばんの使い方を教えました。

寺子屋（5ヶ所） 農家の子ども（男女とも）が通いました。文字の読み書きやそろばんの使い方を教えました。

漢学塾（4ヶ所） 郷学校や寺子屋を卒業した子どもが、儒学などより難しい学問を勉強しました。